取り付けかた （図は取り扱いを説明するため一部省略抽象化した図です）

1 取付前に確認する。

●取付ボルトは、器具質量(表１)に十分耐える補強のある天井面に設ける。取付位置は、背面取付穴(図１)を参照してください。
●取付ボルトの出代は本体内３５mm以下にする。
取付ボルトが出すぎると反射板が取り付けられなくなります。
●器具を連結する場合は、連結のしかた(図２)にしたがい連結用ガイドを取り付けてください。

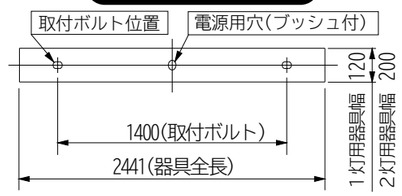
器具質量（表1）

器具形式	灯数	器具質量
NME11103-J24A	1	4.3 kg
NME11203-J24A	2	6.2 kg

2 器具本体を取付ボルトで天井面に確実に取り付ける。

●電源線・アース線を本体中央の電源用穴から引き込んでおく。

背面取付穴（図1）



3 電源線・アース線を電源端子台に接続する。(図３)

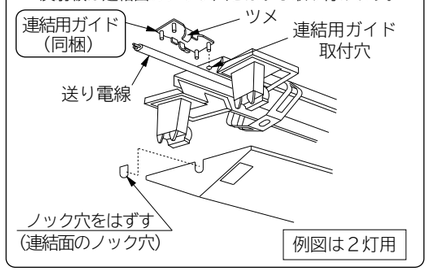
●電源線・アース線を指定の長さにストリップし、接続穴にしっかり差し込む。
●反射板で挟まないよう電線を処理する。
●アース工事はD種接地工事を行う。
●電源線を解除する場合は、ドライバーで解除部を押してはずす。
アース線を解除する場合は、マイナスドライバーを解除用穴に挿入してはずす。

4 反射板を確実に取り付ける。(図４)

●反射板を本体にセットし、押し上げながらターンファスナーを確実に９０°回転させ、反射板を本体に固定する。
（ターンファスナーは工場出荷時に反射板に仮止めされています。）

連結のしかた（図2）

●連結用ガイドを本体に取り付け、送り電線を連結用ガイドに付いたツメの内側に収めます。
反射板は連結面のノック穴をはずし取り付けます。



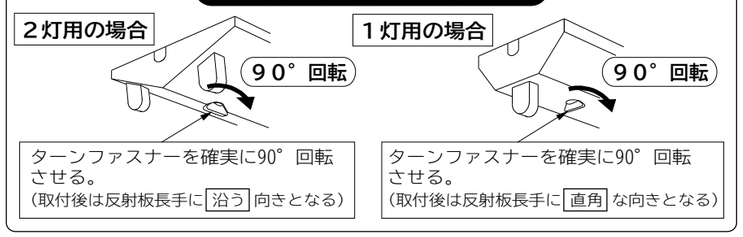
5 ソケットおよびホルダーにランプを確実に取り付ける。(図５)

●ランプには方向性があります。取り付けの向きにご注意ください。
●ランプの中央部を持ち、ソケットおよびランプホルダーに確実に取り付ける。

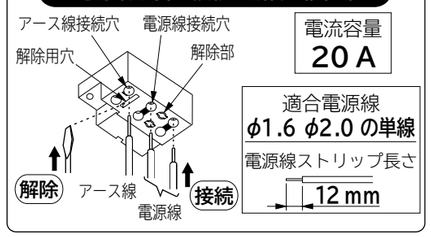
⚠注意 取り付けに不備があると落下によるけがの原因となります。

6 工事完了後にランプが正常に点灯するか確認する。

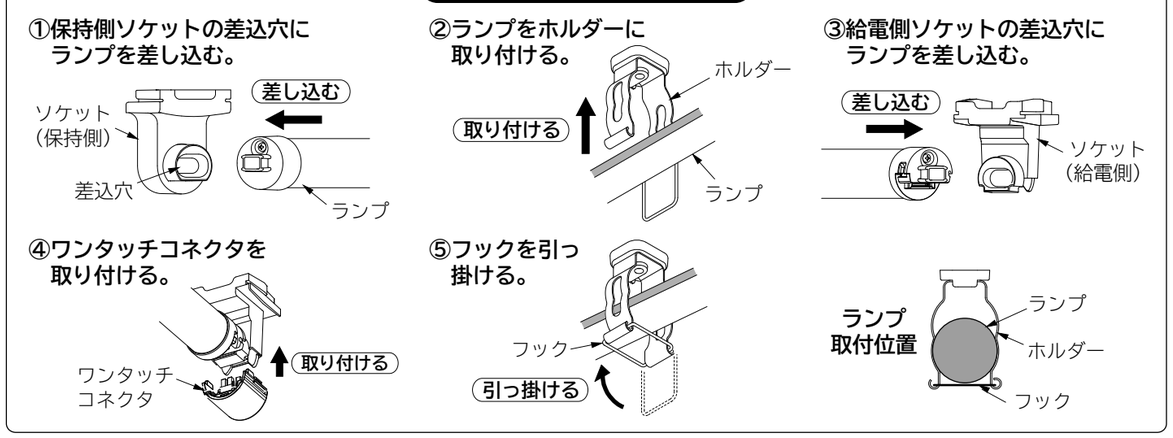
反射板の取り付けかた（図4）



電源端子台の接続と解除（図3）



ランプの取り付けかた（図5）



お客様へ この取扱説明書は必ず保管してください。

●このたびは日立LED照明器具をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

⚠警告

●器具を改造しない。※火災・感電・落下によるけがの原因となります。
●器具のすきまや放熱穴に、金属類を差し込まない。※火災・感電の原因となります。
●器具やランプを布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりして使用しない。※火災の原因となります。
●煙がでたり異臭がしたら、すぐに電源スイッチを切り、器具の使用をやめる。※火災・感電の原因となります。
●ランプ交換やお手入れは、取扱説明書により確実に行う。※火災・感電・落下によるけがの原因となります。

⚠注意

●器具の近くで温度の高くなるもの（ストーブ・ガスレンジ等）を使用したり、近くに燃えやすいものを置かない。
※火災の原因となります。
●器具銘板またはラベルに記載されているランプ以外は使用しない。※不点灯やランプ短寿命の原因となります。
●ランプだけを器具から取りはずしての間引き点灯はしない。※火災・短寿命・絶縁不良の原因となります。
●ランプに物をぶつけたり、荷重をかけたり、無理な力を加えたり、傷を付けたり、落としたりしない。
※ランプの破損によりけがの原因となります。
●落としたランプは使用しない。※感電・落下によるけがの原因となります。

ご使用上の注意

●明るく安全に使用していただくために、定期的に清掃・点検をする。
３年に１回は電気工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら交換してください。
●照明器具には寿命があります。ＬＥＤ光源は寿命が来ても点灯し続けますが、設置して８～１０年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行していますので点検・交換してください。
（使用条件は周囲温度３０℃、１日１０時間点灯です。）
●電波の弱い場所（山間・鉄筋建物等）では、ラジオや室内アンテナ使用のテレビに影響することがあります。
●器具の近くで赤外線リモコン方式のテレビなどを使用するのはお避けください。リモコンを操作しても動作しないことがあります。
●器具の近くでワイヤレスマイクの使用はお避けください。雑音が入り正常に動作しないことがあります。
●ＬＥＤ素子は製造上、発光色、明るさにバラツキがあるため、同一製品でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。また、同一ランプ内でもＬＥＤ素子のバラツキによる発光色のむら、明るさのむらが生じることがあります。
●温泉地などの腐食性ガスが発生する場所での使用はお避けください。光学特性などに不具合が発生することがあります。

■照度補正形の機能説明は、別紙「照度補正機能について」をご参照ください。